

被災地を忘れない

東日本大震災から8年

未だ放射能の不安の中にいる人々に寄り添い、支援を続けます。



民家の近くに大量に積まれたフレコンバッグ

共生の時代

みどりの地球を
みどりのままで

2019 3 月

発行：一般社団法人グリーンコープ共同理事会
編集：共生の時代・編集部
〒812-8561
福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号
博多大博通ビルディング3階
TEL092(481)7923
FAX092(481)7876
http://www.greencoop.or.jp/

Contents

グリーンコープ30周年記念 CM制作スタッフとの 対談	2
原発ゼロ社会に 向けての学習会	3
連合会福祉委員会 福祉拡大学習会	4・5
連合会組織委員会 平和学習会	6
グリーンコープの輪・和・環 グリーンコープ生協おおさか 平野 恵司さん	7

別紙にて、「放射能汚染と向きあう(放射能測定室より)」を掲載

心の灯りをともそう 3・11 キャンドルナイト



でんきを消して、スロ
ーな時間をすごしなが
ら、本当に大切なも
のは何かを考えよう!

「震災で亡くなられた方への追悼」
「被災地の復興への願い」そして
「原発のない社会への願い」。さま
ざまな思いを胸に、でんきを消し
て、キャンドルをともしましょう。

グリーンコープは、東日本大震災の発生直後から今日まで、*公益財団法人 共生地域創造財団を通じて、現地の状況に応じた支援に取り組んできました。

津波の被害が大きかった地域では、徐々に復興が進んでいるように見えますが、未だに多くの方が安心して暮らせる状況とは言えません。

一方、福島第一原発事故の被害を受けた地域では、放射能の影響で、人々は先の見えない不安の中で暮らしています。

グリーンコープは、被災地で困難を抱えた人々に寄り添い、支援を続けています。
*グリーンコープ、ホームレス支援全国ネットワーク、生活クラブ生協が連携して共生地域の創造を目指す、被災地の復興支援を行っている団体

目に見えず、臭いもない放射能の不安

豊かな自然に恵まれた福島では、原発事故により人々の生活が一変しました。除染も完全ではなく、今も高い放射線量が検出されるホットスポットが存在します。空間線量は低下しましたが、土壌汚染は未だに深刻で、特に子どもたちへの影響が心配されます。また、山林は除染がされていいため、雨や風により汚染物質が流れ出したり、移動する恐れもあります。人々が暮らす地域の中にも、除染作業で取り除いた汚染土を入れたフレコンバッグがいたる所に積み上げられています。

しかし国は、汚染土を道路や園芸作物を植える農地の造成などに再利用する方針を打ち出しました。また、公園や学校などに設置しているモニタリングポスト約3600台のうち約2400台を撤去する計画もあります。福島に暮らす人々の不安を顧みない国の政策に、多くの人々が憤りを感じています。避難指示が解除になった地域では、自宅に戻る

かどうかを自己責任で決めなければいけません。子どもがいる世帯では高齢者だけが戻り、家族が分断されるケースも多いのが実情です。同じ地域の中でも道を挟んで避難区域と避難区域外に分けられ、賠償額も違うことから、地域の分断や格差も生まれています。

小児甲状腺がんの発症が問題になっていますが、国は「原発事故の影響は考えにくい」と言っています。

市内の一部が特定避難勧奨地点に設定されていた伊達市が個人の累積被曝線量を測定するために全市民に配布したガラスバッグ(線量計)による調査データを基に、東京大学の早野龍五氏らによって書かれた論文は、国の被曝線量の基準の参考

資料にもなっているようです。しかし、個人の被曝線量の過小評価や、同意を得ていない個人データの使用について、市民から問題提起がされています。

「福島を前に向き暮らす人々を応援する」グリーンコープは、不安を抱えながらも福島で暮らしていくことを決断した人々を応援する取り組みを続けています。

「南相馬・避難勧奨地域の会」では、年間被曝量の20ミリシーベルトを基準とした特定避難勧奨地点が解除されるのは不当だと、国を相手に解除取り消しの訴訟を起こしています。実態を把握するために土壌汚染調査を行うため、市民に知らせる活動をしており、グリー

ンコープから寄贈した放射能測定器が調査に役立てられています。

「福島を前に向き暮らす人々を応援する」プロジェクトは、福島で子育てをする家族を応援するため、子どもたちが放射線量の低い地域で遊び学べる保養を行っています。

難指示が解除された葛尾村では、帰村した人は事故前の5分の1ほどで、ほとんどが高齢者です。村を元気にしたいと全国の支援者が親戚のようなネットワークをつくり、村での米作りに参加しています。2018年からグリーンコープの組合員も田植えや稲刈りに参加し、村の人々と支援者たちと交流しています。地域を再生したいと取り組んでいる皆さんに寄り添い、支援を続けています。

福島ほかプロジェクト参加者の声から

—主催者の矢野恵理子さんの報告より—

- ・福島での子育ては、心配しながら、我慢しながら、あきらめながら…の生活で、みんな必死です。
- ・ホットスポットなど放射線量が高い場所が福島にはたくさんあります。そんな場所で遊ばせたりしなくてはならず、普通に生活しているからこそ、保養が必要なのです。
- ・少しの間でも放射能が高いところから離れて過ごすことが出来ること、その環境で自由に遊べること、放射能に関して、近い考えのお母さん方で気持ちを共有できる機会が保養にあります。



グリーンコープの組合員や全国の支援者が葛尾村の稲刈りに参加した

募金にご協力ください

3月4日~16日の2週間、東日本大震災復興支援募金の申し込みを受け付けています。

共同購入申込書でお申し込みください。

008 東日本大震災復興支援募金 一口200円

009 東日本大震災復興支援募金 一口500円

※詳しくはカタログGREEN51号(2月25日週配布)のチラシをご覧ください。

※1 大気中の放射線量を継続的に測定する装置

※2 放射線量が局所的に高い地点として国が指定。一律的な避難指示や規制は行わず、放射線の影響を受けやすい妊婦や子どもがいる家庭に対して特に避難を促した